

文化

韓国民主化運動と絵本作家たち。その哲学
～韓国絵本創成期をつくった作家たちは何を描いたか～

いちよう塾への申込み

八王子市学園都市大学いちよう塾

042-646-5621

申込み期間

5月15日(土)～

6月15日(火)

講師	大竹 聖美(こども文化学科 教授)
開講日時	7月9日(金) 10:20～11:50
会場	八王子市学園都市センター(セミナー室)
内容	韓国の現代絵本は 1988 年ソウルオリンピックの時に産声を上げ、1990年代半ばに歩みをはじめました。韓国絵本の創成期を担ったのは、60 年代に生まれ、80 年代にソウルの大学に通った世代です。社会参与と社会変革を芸術の使命と考えた民衆美術運動の中から生まれた作家たちと言えます。彼らが何を描いたのか、その社会的背景とともに考察し、隣国の歴史と思想を学びます。
対象	18才以上(高校生除く)
定員	17名 応募多数の場合は抽選とさせていただきます。
受講料	一般:1,000円 学生:500円 (お申し込みは、八王子市学園都市大学いちよう塾へ)
持ち物	筆記用具

講師プロフィール

白百合女子大学大学院文学部児童文学専攻修士課程修了、日韓文化交流基金訪韓研究員、大韓民国政府招聘留学生としてソウル延世大学校大学院教育学部博士課程にて博士(教育学)学位取得。アジア児童文学日本センター理事、日本ペンクラブ子どもの本委員、日本文藝家協会会員。著書に『植民地朝鮮と児童文化』(社会評論社)他。優れた韓国の絵本の翻訳紹介、講演等多数。



講師からみなさまへ

韓国現代創作絵本の嚆矢『山になった巨人—白頭山物語』(リュウ・チェスウ作、松居直・李相琴共訳、福音館書店)、『くらやみのくからきたサブサリ』(チヨン・スンガク作、おおたけきよみ訳、アートン)などを読みます。